

オーストラリアレポート

豪州準備銀行の政策金利据え置きと豪ドル相場

- 豪州準備銀行 (RBA) は大方の市場予想通り、政策金利を1.50%で据え置き。金利据え置きは6会合連続となる。
- 声明文でRBA総裁は底堅い国内景気の現状判断を確認。RBAの追加利下げの可能性は後退しつつある模様。
- 豪ドル相場は米利上げ観測台頭により小幅に軟化するも、経常赤字の縮小や海外投資家の資金流入が下支え。
- RBAの豪ドル相場への警戒も限定的。今後は5月の予算案公表に向けた豪州政府の財政政策の行方に注目集まる。

RBAは6会合連続で政策金利を据え置き

豪州準備銀行 (RBA) は3月7日の金融政策理事会で、大方の市場予想通り、政策金利を1.50%で据え置く決定を下しました (図1)。政策金利据え置きは2016年9月以降、6会合連続となります。

声明文では底堅い国内景気の状態判断を確認

フィリップ・ロウRBA総裁の声明文は概ね先月からの大きな変化はなかったものの、底堅い国内景気の状態判断が確認されました。2016年の実質GDPが2.5%成長となったことに関連し、堅調な輸出の拡大、非鉱業セクターでの設備投資増加、平均水準またはそれを上回る消費者・企業の信頼感、民間消費の底堅い伸びなどが豪州景気の押し上げ要因となっているとの見方が示されました。

RBAの追加利下げの可能性は後退しつつある

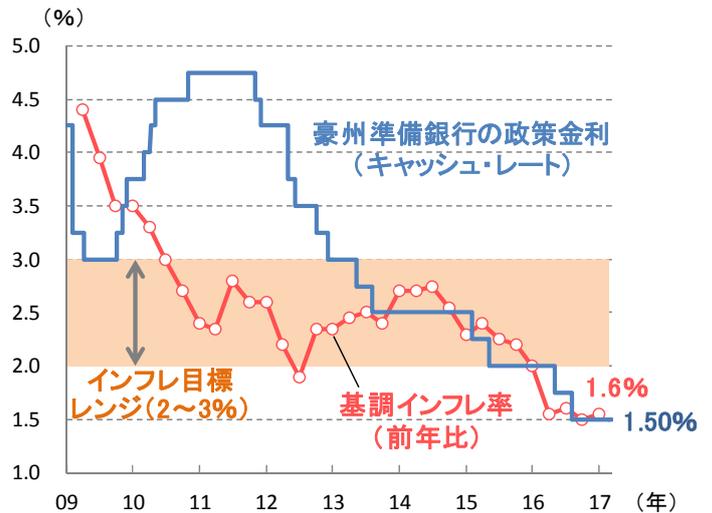
一方、今回のRBA理事会に先立ち、ロウ総裁は2月24日の下院経済委員会での証言で、①RBAがインフレ見通しに加えて、家計の借入状況や労働市場の動向に細心の注意を払っていること、②家計のバランスシート安定の観点からロウ総裁は追加利下げに慎重な見方を採っていること、について言及しました。

今回のRBA理事会の声明文では、従来通りの政策の様子見姿勢が維持されたものの、底堅い豪州景気の状態やロウ総裁の議会証言を考慮すると、追加利下げの可能性は後退しつつあると考えられます。

市場は2017年末までの金利据え置きを織り込む

実際、足元の翌日物金利スワップ (OIS) 市場では、64.3%の確率で2017年末までの政策金利の据え置きが織り込まれています (図2)。一方、OIS市場が織り込む2017年末までの利下げ確率はわずか6.1%に留まり、足元では利上げ確率の方が29.6%と優勢な傾向にあります。

図1：豪州準備銀行 (RBA) の政策金利とインフレ率



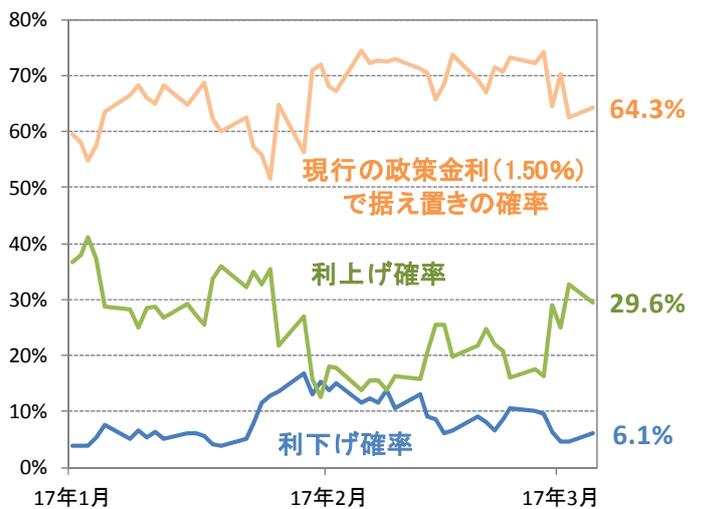
(出所) 豪州準備銀行 (RBA)、豪州政府統計局 (ABS)

(期間) 基調インフレ率：2009年1-3月期～2016年10-12月期

政策金利：2009年1月1日～2017年3月7日

(注) 基調インフレ率は消費者物価指数 (CPI) のトリム平均値 (平均値を算出する際、データの最大値と最小値付近の値を計算から除外) と加重中央値の平均により算出。

図2：翌日物金利スワップ (OIS) 市場が織り込む2017年末までのRBAの金融政策見通し



(出所) ブルームバーグ (期間) 2017年1月2日～3月6日

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的としてレグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

米利上げ観測台頭から豪ドル相場は小幅に軟化

豪ドル相場は2月中旬には一時1豪ドル=0.77米ドル台まで上昇したものの、足元では3月14-15日の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げ観測が台頭し、1豪ドル=0.75米ドル台へ小幅に軟化しました（対円相場は1豪ドル=86円前後で安定的に推移、図3）。

貿易収支の黒字化により経常赤字が大幅縮小

もっとも、豪州の国際収支の面では、経常赤字の縮小や海外投資家の資金流入など豪ドル相場を下支えする要因もあることから、米利上げ観測が浮上する中でも豪ドル相場はなお底堅さを維持しています。

2016年10-12月期の豪州の経常収支は、7-9月期の-102.0億豪ドル（GDP比-2.4%）から-38.5億豪ドル（GDP比-0.9%）へ経常赤字の大幅な縮小が示されました（図4）。資源価格の上昇を受けて、貿易収支が2014年10-12月期以来の黒字に転換したことが寄与しました。

海外投資家の直接・証券投資の流入が拡大

一方、2016年10-12月期の海外投資家による豪州への投資フローは、7-9月期の+147.4億豪ドルから+366.0億豪ドルへ資金流入が拡大しました（図5）。

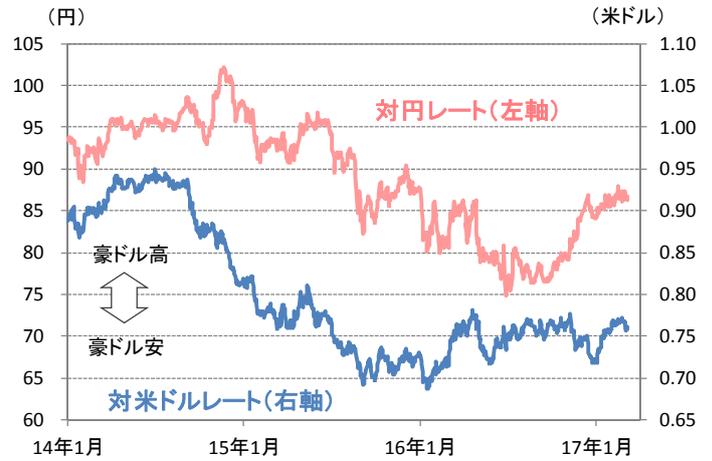
内訳は、海外企業による合併・買収（M&A）や事業投資を表す直接投資が+194.0億豪ドルへ資金流入が拡大しました（7-9月期は+96.3億豪ドル）。海外投資家による証券投資は、株式投資が+79.7億豪ドルと8四半期連続の資金流入となったほか、債券投資は+93.4億豪ドルと4四半期ぶりの資金流入に転換しました。

RBA総裁の豪ドル相場に対する警戒も限定的

フィリップ・ロウRBA総裁は2月24日の議会証言で、豪ドル相場について「下落することを望んでいるが、現在の水準が過大評価されているとは言い難い」との認識を示しました。鉄鉱石などの資源価格の上昇によって豪州の交易条件が改善していることから、RBAの豪ドル相場に対する警戒姿勢は限定的に留まっている模様です。

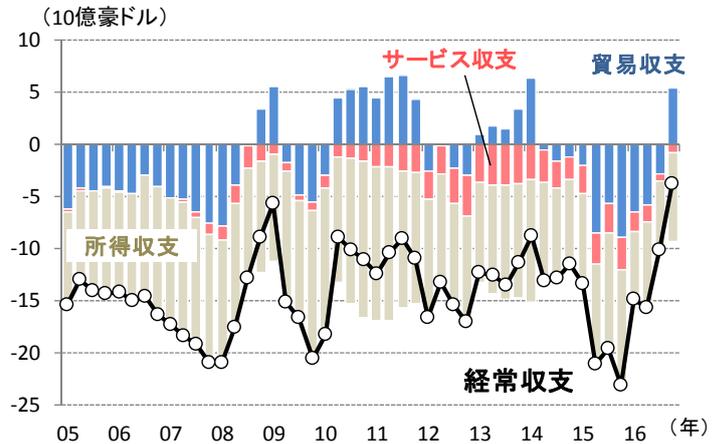
RBAの金融政策が安定局面に入中、今後の市場の注目は5月の政府予算案公表に向けた豪州政府の財政政策の行方に集まりそうです。

図3：豪ドルの対米ドル・対円相場



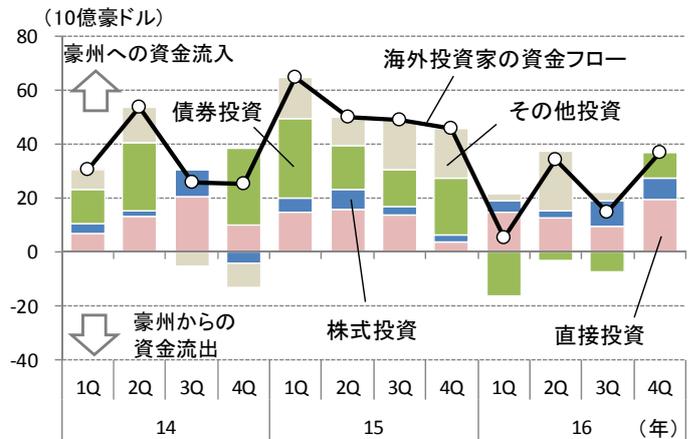
（出所）ブルームバーグ（期間）2014年1月1日～2017年3月7日

図4：豪州の経常収支の推移



（出所）ABS（期間）2005年1Q～2016年4Q（注）季節調整済

図5：海外投資家による豪州への投資フロー



（出所）ABS（期間）2014年1Q～2016年4Q

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的としてレグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。